

第47回肉用牛研究会in福島

10月8、9日に福島県白河市で肉用牛研究会が開催されました。ちょうど台風18号が日本列島に來襲したさなかでしたが、すべりこみセーフで福島までたどり着きました。いや、でも安心して居る場合じゃないです。僕は今回が我が人生初の学会発表なのです(/o^o/)ということで発表前日はあまり寝れず…

当日、会場についてしまうとなぜか緊張はほぐれ、その/リで発表も何とか無事におわりました(*^-)vよし、あとは懇親会で酒飲んで寝るだけだー！がしかし、事件はその後起こりました。緊張から解き放たれた僕は突然の体調不良に襲われ唯一の楽

しみだった懇親会に出られなかったのです(/口-。)はああああ…。学会デビュー1日目はまさかの展開で幕を閉じました。

二日目はケロッと治りシンポジウムを聞けました。ざっくり言うと、今後の肉用牛の改良の方向性はどうあるべきか！？というテーマでしたが、とても刺激的な時間を過ごせました。

というわけで、初の学会発表は予期せぬアクシデントもありましたが、最後に駅で食べたラーメンがおいしかったので結果オーライです(-^*)/次もガンバロー！！

(かとう)



福島県南湖公園の紅葉

目次:

広岡先生の隨筆 ◎新型インフルエンザ騒動を考える	2
2009年版 アフリカ人の山羊研修	3
工場見学	3
ヒージャーファンのため の山羊の講演会	4
町で見かけた山羊グッズ	4
山羊の本	4
お知らせ	5

四明会ソフトボール

今年も四明会ソフトボール大会の季節がやってきました。はくび会の選抜メンバーで構成されるわれらが「メガネッシュ」は今年「眼鏡衆」と名を改め、10月15日の初戦を迎えました。ここ数年は芳しい結果が得られていないので、今年こそと意気込んで望みましたが、相手のピッチャーを見ると剛速球とコントロールを兼ね備えており、厳しい戦いが予想されました。



序盤は、眼鏡衆のエース浦野君のがんばりもあり、1,2回と0点に抑えることができました。しか



し、攻撃陣のほうでは最初の予想通り、相手のピッチャーの球速についていけず、1安打に抑えられ、いいところが見られませんでした。3回には、ついに4点を奪われてしまい、今回の四明会初戦は完敗という悔しい結果となりました。やはり四明会ソフトボール大会という厳しい戦いを勝ち抜くには全体練習が必要不可欠だと感じました。



(記者N)

季節はずれの大型台風で、各地に被害が広がりました。アフリカから来たの研修員たちは、始めてみる台風にちょっと興奮気味でした。

10月中旬から、長野県ではストーブを焚き始め、福島県ではコートがないと出歩くのもちょっと寒くてつらい感じでしたが、沖縄県はまだまだ夏！長袖を着ていると汗だくに。来週からの訪問先、北海道では雪が降っているとか…風邪を引かないように用心したいものです。

好評連載 広岡先生の随筆

㊦ 新型インフルエンザ騒動を考える



私が少年だった1960年代は、日本中が自然に溢れ、子供たちは至る所で遊び回っていた。そのような遊びの中で、田んぼの周りには肥だめがあり、足を踏み入ると大変な目に合うことや草むらにはマムシがおり、噛まれると死に至る危険のあることを学んだ。また、野原の真ん中には大きな池があり、そこで釣を楽しんだものであった。しかし、現在は、危険そうなところはすべて柵で囲われ、立入禁止になっている。河川脇の草むらはすべてコンクリートに固められ、それが自然の遊び場として子供たちに提供されている。その結果、子供たちは、自然から多くのものを学ぶ機会と本当の自然そのものを知る機会を失った。

今回の新型インフルエンザ騒動は、世界中に日本人の滑稽さを示すこととなった。諸外国は、新型インフルエンザが弱毒性で、従来のインフルエンザとほとんど異ならないことが明らかになったらすぐに方針を変更し、対処法を根本的に変えたが、日本ではあいかわらず方針の修正ができず、京阪神の学校は、京都大学を除きほとんどすべてが休校となった。

このような事態が引き起こされた原因は、意思決定者の責任逃れと一般市民の自己責任感の欠如である。現在の状況であれば確かに一人でも新型インフルエンザ患者が発見されれば、マスコミなどによって集中的に報道され、大変なことになることは明らかで、文句を言われぬ最大限の防御策を講じるのが、当事者にとっては最も安全な道である。しかし、その結果、歴史的な滑稽さを全世界に発信することとなった。

今回の騒動は私にとっても他人事ではなかった。その時期、研究室の西尾君がアメリカの研究シンポジウムに出席しており、さらに運悪く、彼の帰国日が、カナダから、アメリカ経由で帰国した高校生が成田空港で新型インフルエンザに罹っていることが最初に見つかった日であった。彼もその飛行機に乗り合わせていて、一週間ホテルに缶詰になるのではないかと心配していたのであるが、運よくその便ではなく、京都に無事帰ることができた。しかし、次の日に彼が大学に来てよいものかどうか、私が判断せざるをえなくなった。彼とはできる限り早く会って、現地での話を聞きたかったのであるが、私の下した判断は、ちょうど次の日が金曜日であったので、その日は1日休み、月曜日から大学に来るように勧めることであった。その時、もし、彼が「こんなことで大学に来られないのはおかしいじゃないですか」と言ったら、どのように答えようかと悩んでいたが（おそらく私ならばそう言ったであろう）、彼は素直にその提案に応じてくれた。ちょうど、その日の夕方、大学から、「感染国からの帰国者は1週間自宅待機しなさい」というメールが入った。

この時私が考えていたことは、彼が万一感染していた場合に、大学が取らざるをえない対処（おそらく、農学研究科の全講義の休講、場合によっては北部キャンパス閉鎖、農学部総合館全体の消毒など）と彼が1日来ることのメリットを天秤にかければ、彼が感染している確率が数万分の1であっても、1日休むほうがベターと考えた。確かに、これさえも責任逃れと言われるかもしれないが、異常な日本の対応と彼がメキシコ、カナダを含む世界中からの研究者が集まる学会に1週間出席していたことを考慮すれば、1日休むデメリットは小さいと判断した。

以上が、私がリアルタイムで経験した新型インフルエンザ騒動である。京都大学では、教授がその研究室の管理運営の責任をもつことになっており（講座制でない大学では教授と准教授は職責が等しいが、京都大学では現在も講座制を取り、以前と同様である）、研究室にかかわる意思決定をする必要がある。その際に常に考えることは、メリットとデメリットを天秤にかけることであり、当然、その結果いかんによっては重大な責任を負うことにもなる。しかし、責任を逃れることのみを考えていると、もっと大きな信頼を失うことにもなりかねない。

冒頭で述べたことであるが、子供に対する対応を見ても分かるように、いつからか日本では、意思決定者は責任逃れに奔走し、一般の人々は自分で責任を取ることを放棄して、意思決定者や公に責任を押し付けるようになった。「かわいい子には旅をさせよ」という諺は、死語になりつつある。この問題に早急に対処しなければ、今後の日本に未来はない。

後日、危機管理の専門家に聞いた話であるが、新型インフルエンザ騒動が主として関西で起こり、関東で起こらなかったのは、東京オリンピック招致に影響があるためだという噂があるそうである。真偽は定かではないが、「さもなりなん」である。

広岡博之

2009年版アフリカ人の山羊研修

10月5日から、独立行政法人国際協力機構による独立行政法人家畜改良センター（福島）受託案件『アフリカ地域別小型草食家畜生産を通じた農村開発研修2009』コースの実施季節となりました。昨年に引き続き、今年もコースアドバイザーとしてお手伝いをさせていただいています。



今年は、ガーナ、ケニア、タンザニア(2)、ウガンダ、ザンビア、ジンバブエ(2)の6カ国から8名の

研修員を受け入れています。彼らはいずれも国または州の畜産部担当のお偉い方々で、年齢は28～48歳、男性5名女性3名です。そろそろ研修も3週間が過ぎ、みんなだいぶ仲良くなってきました。

研修の内容は、大きく分けて山羊と羊の飼養管理、乳や肉を用いた製造加工技術、農村開発および普及法の3つで、それぞれについて講義と実習があります。この研修では、山羊の実習で(独)家畜改良センター長野牧場、羊の実習で(独)家畜改良センター十勝牧

場、日本において山羊肉文化の流れる沖縄など、全国を巡りながらさまざまな知識を得て、実習を積みます。一緒に講義を聞いているだけでもいい勉強になりますよ。

この研修での私の仕事は、専門的知見から研修をサポート



が対応できない畜産専門用語の補充、講師の先生方とのディスカッションの橋渡し、研修員の

成果報告などが主な仕事です。一口にアフリカと言っても、国によって畜産物も違えば家畜の飼養方法も異なります。研修員から学ぶこともたくさんあります。講師の先生方も、やはり山羊好きさんが勢ぞろい、毎日楽しんでます。

ただ、北海道から沖縄までを2ヵ月半でめぐる旅、研修員全員が体調を崩すことなく、元気に最後まで研修を楽しんでもらいたいと思っています～！

(ようこ)



アフリカ人研修員と長野県青木村の農業体験民宿「たんぼぼ堂」ヘチーズ製造実習で伺いました。宿泊して山羊のトマト煮込み、ロースト山羊、山羊ロールキャベツなどおいしい山羊料理をたくさんいただきました～(^^)。
たんぼぼ堂 長野県青木村大字田沢1617<<http://www.tanpopodo.com/>> (山羊料理は要確認)。



工場見学

休日を利用して、「工場見学ツアー」なるものをしてきました。団体ではなく個人でも参加できる工場見学、意外とあるものです。この日はビール工場と某乳酸菌飲料の工場に行ってきました。どちらも無料、試飲付き、そして大学から



らは電車で30分程度です。ビール工場では、副産物の利用のひとつとしてビール粕を牛の飼料として使っているとの説明を受け、まさにちくしのフィールドではないですか!!!



ものの、企業単位ですが研究が製品に生かされている現場を見、説明を聞き、とても有意義な時間だったと思います。みなさんも気になる工場見学、行ってみたいかがでしようか～☆

と、テンションが上がりました。ビールの試飲は最高でした。ビール酵母や乳酸菌・・・畜産とは分野が違う



第47回肉用牛研究会 福島大会

10月8・9日に福島県の(独)家畜改良センターで肉用牛研究会が開催されました(1ページ参照)。

畜産資源からは、加藤君(M1)らが、「F1肥育牛における血清ビタミンAおよび総コレステロール濃度に関する遺伝性と枝肉形質との関連性」の発表を行いました。

肉用牛研究会
<<http://bre.soc.i.kyoto-u.ac.jp/>>

街で見つけたヤギグッズ

世の中に、ひつじグッズはたくさんあれど、やぎグッズはなかなかレアもの。見つけると嬉しくなつて、つい買っちゃうんだなあ…



Coffee Farm KALDIのキャラクター「ヤギベス」のエコバッグとマイルドブレンドコーヒー。ノートもあります。



やぎの本場沖縄には、ありましたありました！沖縄Tシャツ“ヒージャーシリーズ”。Habu Boxで売っています☆



そして研究室でも大人気♪オキハム（沖縄ハム総合食品株式会社）の“ヒージャーキー” ¥315
那覇空港わしたショップで売っていました。

ようこ



ヒージャーファンのための

山羊の講演会

10月30日（金）、沖縄県沖縄市農民研修センターにて、沖縄県畜産技術者協会主催の「ヒージャーファンのための山羊の講演会」が開催されました（ヒージャー：沖縄の方言で山羊のこと）。この講演会は、沖縄県が実施する「おきなわ山羊振興活性化事業」の一環として開催されたのですが、私は沖縄県からの依頼を受けて、「畜産動物としての山羊～現状と可能性～」というタイトルで講演＆パネリストをしてきました。

沖縄県は、日本の山羊文化中心地。山羊生産者の方々も、ヒージャーグースー（山羊肉好き）の方々も、とにかく熱い熱い！！この日も、生産者、流通関係、行政関係、報道関係、学識経験者、一般の方々などなど県内から146名もの人々が集まりました。これは、毎年行われる全国山羊サミットと同じレベルです♪

講演会では、私のほかに県調理師会会長の大城正順氏（ブセナテラスホテル総料理長）が、山羊肉料理レシピのお話をされました。総合討論会では、琉球大学の砂川教授（家畜生理学）や行政関係者もパネリストとして加わり、



沖縄県の山羊交雑事業や山羊肉の流通問題、山羊肉の機能性食品としての可能性などなど、時間を延長して活発な意見交換が行われました。

講演会の休憩時間に、朝搾った山羊乳とアイスクリーム、チーズをご馳走して下さった生産者の方がいらっしゃいました。どれもとても美味しく、これはお土産に買って帰ろう！と思つたのに、お忙しかったのか気付いたときにはすでに会場にはいらっしゃらなく…どなたか心当たりがあれば、ぜひ編集部までご連絡ください(^_^)。

この講演会に先立って、会場近隣の山羊農家さんを訪問させていただきました。ここで驚いたのは、山羊の大きさです。この写真に写っているのは、3歳のオスでなんと140kg(@@)！。ザー



ネンにヌビアンが少し混じっているとのことでしたが、後ろに写っているお父さんが隠れてしまいそうな大きさです。

しかも歴代のオスの中では小さい方だとか…恐るべし、沖縄山羊生産者です。

今回の沖縄では、観光では味わえない沖縄県のディープな山羊好きさんにたくさんお会いすることができました。来年は沖縄で全国山羊サミット。今から楽しみです～♪ (ようこ)

山羊の本

最近巷で見つけた山羊の本をまとめて御紹介します～☆

「沖縄でなぜヤギが愛されるのか」平川宗隆著、ポーター新書(945円)2009年10月

「ヒージャーのおんがえし」(南大東島の民話) 仲田丸子著、アトリエ丸子(1000円)

「ヤギ飼いになる-飼い方から実例、グッズ、ミルクレシピまで」ヤギ好き編集部、平林美紀、中西良孝、誠文堂新光社(1470円)2009年7月

「ヤギの見る色どんな色？-実験240日の記録」岸上祐子(著)、満田正治、ポプラ社(998円)2004年2月

(ようこ)

Department of Animal Husbandry
Resources, Kyoto University,
Faculty of Agriculture
Oiwakekyo, Kitashirakawa,
Sakyo-ku Kyoto 606-8502 Japan

電話 075(753)6365

FAX 075(753)6365

http://www.animprod.kais.kyoto-u.ac.jp/

GOAT BULLETIN



GOAT BULLETINは、皆様の投稿記事で
成り立っています。形式・文字数は問いません。
また、読者の方々からのご意見やお問い合わせ
も大歓迎です。下記のアドレスまでどしどし
送信してください。

E-mail: yoko3t@kais.kyoto-u.ac.jp

お知らせ

今月のゼミ

今月のゼミは、

11月 10日(火) イクバル(修士中間発表)・柳(文献紹介) 14:45-16:15

11月 11日(水) 木村(知)・児嶋(修士中間発表) 10:30-12:00

11月 17日(火) 木村(知)・児嶋(文献紹介) 14:45-16:15

11月 26日(木) 木村(悠)・中川(靖)(研究者会議) 10:30-12:00

の予定です。教室はE-103です。変更等は、随時お知らせします。

ゼミ係

研究室の動向

先月に引き続き、塚原さんは(独)家畜改良センター実施の「アフリカ
人山羊研修」のコースアドバイザーとして全国行脚中です。11月は、
帯広～福島～沖縄と日本縦断予定です。11月16日から12月1日まで
熊谷先生と荒木さんが、12月15日まで酒井君がネパールで研究を行
います。

今月のお誕生日会

今月のお誕生日さんは、熊谷先生、ようこさん、イクバルさんです。
11月10日(火)のゼミ後にお誕生日会を予定しています。

時間や出し物(?)など詳細については、追ってお知らせします～♪

イベント係り

2009年 11月の飼育当番表

日	月	火	水	木	金	土
1	2 イクバル	3 竹内	4 児嶋・柳 体重測定Ⓞ・注射	5	6	7
8	9	10	11 西尾・石田 体重測定Ⓞ	12	13	14
15	16	17	18 加藤・中川 (靖)・木村(悠) 体重測定Ⓞ	19	20	21
22	23 勤労感謝の日	24	25 中川(智)・稲垣 体重測定Ⓞ	26	27	28
29	30	12/1	2	3	4	5

編集後記 つい先ほど、鹿児島大学時代の恩師渡邊昭三先生がお亡くなりになったとの通知を受けました。10月30日(金)、享年82歳
でいらいしました。渡邊先生は、大学を卒業してから随分経って大学へ戻った私に対し、「僕の目の黒いうちは面倒見ますよ」といつも
おっしゃって下さいました。12月初旬に筑波へ出かけるので、その時にまたお食事でもと思っていましたが、叶わぬ夢となってしまいました。昨
年、私のためだけに特別講義をして下さったことを、今もはっきり思い出します。先生のお言葉を胸に…御冥福をお祈りいたします。